



下妻市観光大使  
お笑いコンビ  
「江戸むらさき」

お笑いコンビ「江戸むらさき」の野村浩二さんと磯山良司さんは共に下妻市出身で、平成24年3月に下妻市観光大使に就任しています。

地元イベントへの出演をはじめ、3・11東日本大震災や平成27年9月の関東・東北豪雨で下妻市が被災した際にはチャリティ活動で駆け付けるなど、地元愛にあふれる活動を続けています。

今月号では、平成28年にコンビ結成20周年の節目を迎える「江戸むらさき」のお二人に、新年の抱負とふるさと下妻について語っていただきました。

## 「下妻の良さを再発見しよう」

### ■知られていない悔しさをバネに情報発信

いつも地元のイベントに呼んでいただいております。10月の「茨城をたべよう収穫祭」でも砂沼サンビーチで、お笑いライブをやらせてもらいました。

収穫祭に参加しても分かるように、茨城にはおいしいものがいっぱいある。なのに、意外と知られていないところに悔しさがある。下妻にもおいしいものがいっぱいあることを知ってもらいたい。

毎年、実家から梨を送ってもらうので、マネージャーや仲間たちに配ると、「おいしい」ってことで、「これ、どこの梨?」って話になるけど、下妻で梨が採れることが結構知られていない。ものは間違いなくいいので、知名度を上げていけたらと思うんです。

そこで、「ふるさと納税」。微力ながら地元と協力しようと思って、ネットで調べてみると、お礼の品のリストに「梨のリキュール」が載っている。リキュールだったら、まず「めずらしい」って食いついて、飲んでみて「おいしい」。「下妻の梨って、おいしいんだ」ってなって、「じゃ、下妻の梨、食べてみよう」になる。ワクワクしますね。

紫峰牛も気になるところで、せっかくだから、「下妻ならでは感」があるものがほしい。地元を知らない人とPRできないので、地元の情報を得ながら微力ですけど発信していきたいと思っています。

### ■下妻の人は、下妻の良さを再発見しよう

茨城県の広報番組に呼んでもらったり、下妻市の観光大使にさせていただいたりしたことで、「地元再発見」ができました。本当にありがたい経験だと思っています。

昔は、「茨城は田舎だよ」くらいで終わらせていたけど、地元でいろいろな経験を得てから、「いや、本当にいいとこだよ」って言えるようになりました。最近では下妻駅前行ったらイルミネーションがきれいで、「攻めてんなー」って感じました。下妻の人は、下妻の良さを再発見するべきだと思うんです。僕らも下妻の良さを探っていきますよ。

### ■コンビ結成20年の節目に

平成28年でコンビ結成20年になるので、下妻で記念ライブができたと思っています。高校生の頃、市内商店街の喫茶店に70~80人くらい集めて、初めてお笑いライブをやったことを思い出します。

それから、情報を発信する場を増やしていきたいです。シモンちゃんに負けないくらい頑張って、これからもより一層地元孝行していきたいと思っています。何と云っても育ててもらった街ですからね。

# 年頭のあいさつ

## 下妻市長 稲葉 本治



明けましておめでと〜うございます。市民の皆さまにおかれましては、健康やかに平成28年の清々しい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、日経平均株価が一時15年ぶりに2万円台を回復、国産初のジェット旅客機が初飛行に成功、ラグビーワールドカップでは日本代表が強豪南アフリカを破る大金星を挙げ、初の1大会3勝など、経済界・産業界・スポーツ界が希望や感動に沸いた話題があった一方で、新国立競技場の建設計画白紙撤回、東京五輪エンブレムの撤回・再公募、免震ゴムや杭打ち工事のデータ改ざんなど、世間を揺るがす大きな事件も多岐にわたりました。

中でも、9月の関東東北豪雨では、過去経験のない大雨が鬼怒川沿川に降り注ぎ、茨城県西南地区の流域市町では甚大な被害が発生いたしました。本市も、鬼怒川の越水により約260戸の家屋が床上・床下の浸水被害を受けたのはじめ、農作物や農業施設、道路や公共施設などに大きな爪痕を残しました。完全復旧にはまだ時間と費用を費やさなければなりません。市民の皆さまが一刻も早く元どりの生活を取り戻せるよう全力で取り組んでおります。

今回の水害では多くのことも学びました。東日本大震災では本市も被災しましたが、水害では地震とは違った対応を強いられ、新たな課題等も発見されました。

また、検証を行いながら、それらの改善にも取り組んでおります。さて、私が市政を担当させていただいて間もなく6年が経ちますが、その間、東部中学校の新築、各小中学校の耐震改修、企業誘致、道の駅リニューアールなど、多くの皆さまに力強いご支援、ご協力を賜りました。特に、地方行政を預かる者としては、

昨年「消滅可能性都市」が叫ばれるなど、将来予想がつきにくい中で、戦略的かつ慎重な市政運営が求められております。国においては人口減少克服と地方創生を目指し、「まち・ひと・しごと創生」が打ち出されました。本市におきましても、「下妻市に住んで良かった」「下妻市に住んでみたい」と言っていただけ

るよう積極的に地方創生に取り組む、「市民が下妻市に誇りを持ち、『下妻市民です』と言えるまちづくり」を目標に市政運営に取り組んでまいります。企業誘致につきましては、既存の工業団地が完売し、自動車関連をはじめとする優良企業の操業開始など順調な推移を見せ、雇用創出の拡大を図りました。今後も新たな工業用地の確保をはじめ、さらなる雇用の拡大を図ってまいります。

また、砂沼を中心とした「砂沼周辺地区都市再生整備事業」を展開し、まちなかに元気を取り戻し、子どもからお年寄りまでみんなが集えるまちづくりを構築すべく、「健幸都市しもつま」をスローガンに、その中心となる砂沼エントランスおよび交流広場整備事業も進めてまいります。そして、これからの市政運営にとって大切なことは、市の将来を見据えた総合的なデザインを描くことであると思っております。若者・女性・高齢者・障害者をはじめ、下妻市に暮らす人すべてが、

お正月を迎えるたびに、「住んで良かった、年々良くなっているね」と思っていただけのようなまちづくりには、市長として全力を尽くしてまいります。結びとなりますが、新しい年が活力にあふれ、市民皆さまの笑顔が輝く、希望に満ちた一年となりますことを心から祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

Photo/鬼怒川と大形橋から日の出を望む